

赤澤学長を知ろう！～学長就任記念インタビュー～



今年度より本学の学長を務められている、赤澤正人学長について、まだあまりご存じでない方も多いのではないのでしょうか？

そこで今回は『赤澤学長を知ろう』というテーマのもと、Lissから赤澤学長にインタビューさせていただきました。

Liss「本学の学長になって最初の印象はどのようなものでしたか？」

赤澤学長(以下、学長)「皆さんが図書館で働いているように、学内で学生が働いている所に、本学創始者である嘉悦孝先生の『怒るな働け』という言葉や、日本で最初の女子商業学校から始まる110年の歴史を感じます。学生には、古くからの伝統や歴史から学べる事を大切に、4年間で自分のモノにしてほしいですね」

Liss「最初の印象に比べ、今の印象はどうですか？」

学長「本学には、色々なタイプの先生がいます。それを学業に活かしている学生が多いと感じましたね。是非皆さんには多彩な個性を伸ばして欲しいですね」

Liss「Lissやヘルプデスク、SA/TAなどの『働ける大学』についてはどう思いますか？」

学長「これは他の大学にはあまりない、本学の大きな特徴です。本学の場合は、経営経済学部、またはビジネス創造学部で活きた経済を4年間で学ぶわけですから、そのためにも大学内で働く事ができるのは貴重な経験になると思います。

SA/TA制度も非常に特徴があり、先生が教えるより、年齢の近い先輩の方が学生自身の問題点をより良く掴んでいる場合もあります。ヘルプデスクも、理解できていない相手にどう教えるかという、社会に出て一番大事な事を身に付けられるので、非常に良いです」

Liss「赤澤先生はどういった本がお好きですか？」

学長「私は外務省に勤めていた時、8カ国で仕事をしていたので、その国について書かれた本をよく読んでいました。あとは、語学は仕事をするために必要だったので、英語を始め色々な言語を本で学んでいました。語学に近道はないので、本

や新聞を読んで地道に勉強していくことが重要です。

語学は好き嫌いがハッキリと別れます。と言うのも、今の日本の教育では、受験対策のための英語になっていますからね。語学は実際に会話をして初めて楽しいと実感できるものですから、外国の方と自由に会話ができれば、好きになれるでしょうね。それにしても、英語は日本人にとって発音が難しい言語です。そのため、私は冗談で『発音の簡単なスペイン語を初めに教育すべき』なんて言うのですがね。スペイン語は日本人に発音しやすい言語で、カタカナを振って読んだだけでも相手に伝わるのです」

Liss「本学HP上の記事に『真の国際感覚を備えた、たくましい学生の育成を目指す』とありますが、赤澤学長は私たち学生にどういった事を望んでおられますか？」

学長「日本の文化や歴史を知った上で、外国語を身に付け、国際的視野から物事を考えられるようになってほしいです。また、以前の日本人は精神的、肉体的にタフな人が多かったのですが、今の日本人は、心身共に強くないところもあるので、タフな人間に育って欲しいです。そして、真の国

際感覚を自分の力にしてください」

Liss「これから本学をどのような大学にしたいと思っていますか？」

学長「今の社会は、決まったレールのあったバブル期までとは違い、“こうすれば良い”というモデルが存在しません。本学では、学生たちが自ら考えて社会に働きかける事ができる“行動力”を身に付け、社会にたくましく羽ばたいて行ける大学にしたいです」

Liss「最後に、本学の学生に一言をお願いします」

学長「私は学生一人ひとりと交流し、経験を伝え、自由に話し合いたいと考えています。12月21日(金)にも交流会があるので、このような機会に是非、皆さんと交流したいです」

Liss「お忙しい中、どうもありがとうございました」

本学には、社会に出た際に必要となる「経験と知識から成る実践力」を備えさせるための、様々な『活きた経済』を学ぶシステムがあるのだと気付きました。そして改めて、本学で学べる事の素晴らしさを実感しました。

赤澤学長から頂いた言葉と熱い思いを糧に、真の国際感覚を備えるために、日々の勉学に励んでいきたいです。



飛翔祭報告～古本市&ビブリオバトル～



皆さん、学園祭お疲れ様でした。私たちLissは、古本市を行いました。古本は多くの方から譲っていただき、本当にありがとうございました。

準備日では「いただいた本を並べるのだから、会場は凝ったものにしたい」と

考え、試行錯誤し、お客さんが本を見やすい配置にできたとと思います。

当日は、この企画を始めた頃からずっと抱いていた「まったくお客さんが来なかったらどうしよう？」という不安とは裏腹に、初日からたくさんのお客さんで

賑わい、古本市を楽しんでいただく事が出来ました。お客さんは学生に限らず、様々な方がいらっしゃいました。中には、まとめて20冊程購入された方もいて、本当に嬉しかったです。

そして、2日目には、古本市の会場の一角で『ビブリオバトル』*というイベントも行いました。ビブリオバトルとは、出場者がおすすめ本を順番に紹介し、一番「読みたい」と思わせた人を優勝者とする、というものです。今回は本学の学生計5名が出場し、観戦者の投

票により、優勝者を決定しました。

結果、優勝したのは『舟を編む』（三浦しをん）を紹介していた、大学院生の津乗祥一さんでした。

今回エントリーされた本は以下の通りです。

- ▶ 『はじめて知る仏教』 (3年・島崎さん)
- ▶ 『秒速5センチメートル』 (2年・神田さん)
- ▶ 『夏雪ランデブー』 (2年・ハンさん)
- ▶ 『鹿男あをによし』 (1年・山本さん)

Lissは古本市の利益を、文化施設の被災・救援情報サイト『saveMLAK』*へ寄付しました(24,200円)。

次回も古本市を行いたいと思いますので、その際は是非、また足を運んでください！



優勝した津乗祥一さん

*ビブリオバトル公式サイト：
<http://www.bibliobattle.jp/>
*saveMLAK：<http://savemlak.jp/>

特集コーナー

あのドラマ・映画の原作を読もう！



今回の特集コーナーは「あのドラマ・映画の原作を読もう！」です。2010年から2012年公開の映像化作品の原作本を集めました。

- ▶ 謎解きはディナーのあとで
- ▶ リーガル・ハイ
- ▶ 三毛猫ホームズの推理
- ▶ 鍵のかかった部屋
- ▶ 悪夢ちゃん
(書籍タイトル：『夢違』)
- ▶ ツナグ
- ▶ 天地明察

ドラマや映画では語られなかったエピソードを楽しめるのが、原作を読む事の醍醐味です！ また、一度映像という形で見ている場

合、そのエピソードは「あの役者の演技よかったな～」と映像と対比させながら読むのも、また楽しいものです。普通に読むよりも頭の中にすいすい入ってきますよ！

今回の特集コーナーの図書は「読書ラリー」の対象図書です。読書ラリーには参加したいけれど、5冊分も読む本がないな…とお悩みの方、ぜひこちらの特集コーナーから、自分が観ていたドラマや映画の原作を借りてみてはいかがでしょうか？ きっと楽しんでいただけたと思います！

図書館からのお知らせ

皆さんは『卒論貸出』の存在をご存じでしょうか？

卒論貸出とは、四大の4年生と短大の2年生を対象とした、卒論製作のための本を、通常より長く借りる事が出来るサービスです。

プリンタの利用制度が変わりました

今学期より、学内プリンタの制度が変更された事をご存知でしょうか？

プリンタの使用について、課金ポイント制が導入されました。この制度は、学生にあらかじめ5000ポイントが配布され、印刷するごとに一定のポイントが減っていく、というシステムです。

なお、カラー印刷かモノクロ印刷かによって、消費するポイント量が異なりますので、ご注意ください。

- 【カラー印刷】
10ポイント/ページ
- 【モノクロ(白黒)印刷】
4ポイント/ページ
- ※両面印刷は1ポイント/ページ割引

期間は半期で区切られており、ポイントの繰り越しはできません。また、ポイント残高は学ナビ左にあるリンクリストの「学生用プリンタ印刷枚数確認ページ」をクリックし、自身の学籍番号とパスワードを入力する事で確認できます。

通常は2週間のところ、卒論貸出では、1ヶ月間借りる事が出来ます。
※ただし図書のみ5冊までです

卒業論文用の資料が必要になりましたら、是非ご利用ください。

